

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0446
施設名	きぼう保育園
施設所在地	葛飾区高砂2-3-7
法人名	社会福祉法人希望福祉会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
・身の回りにある自然に興味を持ち、季節を感じて楽しむことを目指す。石を大事に持っていたり、花や草を家族にプレゼントしたがつたり、土手遊びなど固定遊具がない場所で生き生きと遊ぶ姿を見て「自然」をテーマに決める。当園は毎年、近隣の畑を借りることや園庭のプランターなどで野菜を育てることを行っており、また天候の良い日は屋外遊びを多く取り入れる特色があり、近隣の土手で捕まえたカニを育てる経験など自然物と関わる機会が多い特色あり。自然の中でのびのびとした発想と気づき、探究活動を行う良い環境にあると感じたため。

2. 活動スケジュール

6月 泥んこ遊び(土の感触・水を入れた時の土の変化・造形の楽しさなどを体感する)
7・8月 水遊び(色水遊びでの色の濃淡・混ぜたことの色の変化・水の流れ・氷による個体⇄液体の変化)
2月 チューリップ育て(土作り・球根植え・水やり等、お世話をし、植物の成長を知る)
通年、4・5歳児クラスの畑活動で収穫したものと触れ合う。散歩等の屋外遊びの際、植物・虫と触れ合う。)

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)
どろんこ用の土購入。砂場の砂を移動し、泥んこ用の土を入れる。
色水遊び用の食紅(8色)の購入。氷遊び用の製氷機購入。
植物を育てるためのプランター・土・球根の用意。
適宜、自然物に合った保育室内の掲示場所の用意。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

泥んこ遊びは保護者にお知らせを配布し、準備。泥んこ遊びの日を設定した。泥んこ遊び用の衣類を着て全身が泥んこになる程遊んでいた。

水遊びは7・8月の天候の良い日に当園屋上階で行う。色水遊びから始まり、製氷機を使用しての色付き氷の製氷、それを溶かす遊びや色混ぜ遊びなど日々遊びを発展させながら遊んでいた。

チューリップ育ては園庭内プランターで行う。シャベルを各々で持って肥料と土を混ぜるところから行う。球根を自身の手で植え、園庭遊びの際にジョーロで水あげを行い、育つ姿を日々観察した。

日々の散歩で見つけた花や鳥、虫や木の実の名前を図鑑を見て調べたり、摘んだ花を園に持ち帰りテーブルに飾って昼食に彩を持たせるアイデアなどを取り入れて日々自然物との関わりを楽しんでいた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

どろんこ遊びでは泥の感触を素足で楽しむ姿、泥だんごを作る造形の楽しさ、道を作り水を流す地形政策の楽しさ等を感じ、それらを「見て!」「ぐちゃぐちゃする!」「面白いのできた!」と言葉にして楽しんでいた。

水遊びは色水遊びを楽しみ、色を混ぜた時の変化、水で単色を薄めた水の色の変化、綺麗な色ができた時にお友だちと分け合う姿、色水を凍らせて次の水遊びに備える遊びの継続性と発展が見られた。

チューリップ育てでは各々が植えたチューリップの球根の近くに自身の名前を立て、自身が育てているものとして大事にする姿、成長し綺麗に花が咲いた時の喜び、お友だちとの咲いたチューリップの色の違いを話し合うなど真剣に取り組んでいる姿が見られた。

通年の自然物との関わりでは、散歩時に拾い集めたモミジの種を青いうちから壁に張って飾り、茶色く変色し変わっていく様を観察したり、散歩の道中にある花や出会った鳥・見つけた虫の名前を知りたがり、園に戻った際に一緒に図鑑等を使用し探し知る楽しさなど日々の活動の中で自然物に触れ楽しむ探索活動が見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

自然物をテーマに行うことで、子どもの目線に合い、ともに小さな気付きや疑問、変化や不思議に興味を持ち探索活動を楽しむことができた。普段は生えている草に咲いている花に種類等を求めないが、子供の疑問と関わることで種類の多さ、特徴やその楽しさ、自然発生的に見つけたもので遊ぶ楽しさ（もみじの種飛ばしなど）を行うことができ、学びが多かった。季節を感じ、季節に合った保育を提供する大事さや小さな疑問や探究活動へのサポート、環境設定および疑問を発見する楽しさを見つけやすくする工夫など日々の保育に欠かさない要素を再確認し、子どもたちの輝いた目とその明るい表情から大切さを学ぶことができた。また、職員間で振り返りを行うことで反省を活かすこと、職員同士で協力する大事さが発展することができた。